

第2節・Important dates and some information

チャップリンの原点はPoor（貧しさ）と母との強い愛の絆にあり、そしてこの二つは強く結びついていた。

第4節で述べるチャップリンの作品もここを出発点としており、また第3節・My favorite words に載せたチャップリンの名文「独裁者」での最後の言葉は母への呼びかけであったことは周知の事項である。

この第2節では、Poorに焦点をあてて彼の生い立ちを述べることにする。



当初 (*:1) も著作権上Wikipediaからの抜粋に置換え

[(1)生まれ:1889年]

"Charlie Chaplin's real name was Charles Spencer Chaplin. He was born in London on 16 April 1889. He was Hannah Chaplin's second son. She already had a son, Sydney, when she married Charles Chaplin." (*4: p5)

{【浜田訳文例】チャーリー・チャップリンの本当の名前は、チャールズ・スペンサー・チャップリンでした。彼は、1889年4月16日にロンドンで生まれました。彼は、ハンナ・チャップリンの次男でした。彼女がチャールズ・チャップリンと結婚したときに、彼女には既に一人の息子・シドニーがいました。}

※[tʃæpˌlɪn] : [hænə]

[●(2)Poverty] [1895貧民院 (*7:p26) : 1896孤児院 (*7: p26) : 1899父の死]

最初に書いたように、貧困がチャップリンの原点である。そこで、幼少時代のチャップリンについて次の記述を紹介する。「芸人の子に生まれ、**両親の生活から極貧の生活に落ち、十一才で父は死亡、母は二度目の発狂、兄は船員として海外へという状況で、職もなく家もなく、道ばたに眠り、飢えてゴミ箱をあさり、ミュージックホールを回り歩いて父の知人の芸人からほどこしを受けたりしたという悲惨な体験を持つ**チャップリン。もちろん学歴もなく、**文字もまともに書けなかった**」(*8: p51)という。その貧困な状態は幼いときを通して続くが、ある時を境に内容が変わっているように思われる。そこで、poorの段階を次の二段階に分けた。

Poor-1: 《貧しいが家族とともに》

彼の貧しかった生活の実例をあげてみよう。

"Sometimes mother took off her shoes and one of the brothers put them on and ran to the soup distributing centre.....their situation remained so hard that mother was obliged to pawn Sydney's only jacket very other week." (*5: p11)

{【浜田訳文例】時々、母は彼女の靴をぬぎ、そして兄弟のうちの1人がそれをはいて（貧民用）スープ配給所に走っていきました。彼らの状況は、相変わらず非常に厳しい状態だったので、母はシドニーの唯一のジャケットをまさに一週間おきに質に入ればなりませんでした。}

※take off=脱ぐ : [dɪstrɪbjʊ:t]配分する、分配する : [rɪmeɪn] : [pɔ:n]~を質入れする

だが、この時は、彼は必ずしも不幸ではなかった。それは次の記述からも明らかである。

"They were terribly poor. But they were not unhappy. There was love in the family and Hannah...sang and danced for...two. She told them wonderful stories that they never forgot.....She often told the stories without words: her hands, her face and all her movements said everything. It was the art of mime at its best. ...he (Charlie) learnt all his skill in mime from his mother." (*4: p11)

{【浜田訳文例】彼らは、ひどく貧しかった。しかし、彼らは不幸ではなかった。ハンナは二人の子供のために歌い・踊った。彼女は子供達に彼らが決して忘れることのないすばらしい物語を話した。彼女はしばしば言葉を使わずに物語を語った：彼女の手、彼女の顔、そして彼女の動きの全てがあらゆるものを語っていた。それは、最高峰のパントマイムの芸でした。彼（チャーリー）は、パントマイムの中に秘められている彼の全ての技を彼の母から学びました。

※英文中の（ ）内は浜田が挿入}。

Poor-2: 《Really poor》

だが、チャップリンが11歳の時、母の2度目の発狂によって事態は変わってくる。

'She had become utterly weak from malnutrition...."Your mother's insane," said a little girl. "She's been knocking at our doors, giving away bits of coal, saying they were birthday presents for the children," added another girl. ...Next morning, when Charlie awoke, he felt a haunting emptiness in the room. ...His life as a street arab now began. ...Even when...winter come, he slept outside on benches or the roadside, trembling with cold and hunger. He kept himself from hunger by eating the fruit and vegetables he picked up from the gutter of the market. He seldom returned to the garret, where there was no one to welcome him.' (*5: pp13-14)

{【浜田訳文例】彼女は栄養失調のため衰弱しきっていた。

……「あなたのお母さんが気がふれているわよ」と、小さな女の子が言いました。「彼女は私たちの家のドアをノックし、わずかな石炭のかけらを渡し、それらは子供達へのバースデープレゼントだと言って回っているのよ」と、別の女の子が付け加えた。

……明朝、チャーリーが目覚めた時に、彼は部屋がお化けでもでそうなくらいな空虚さを感じた。

……街の浮浪児としての彼の生活がその時から始まった。……冬が来た……時にさえ、彼は、寒さと空腹に震えながら、ベンチや道の端っこで眠った。彼は、市場の溝から拾った果物や野菜を食べ、空腹から身を守った。彼はめったに屋根裏部屋に戻らなかった。そこには、彼を迎えてくれる人が誰もいなかった。}

※[ˈlɑːrli]すっかり、全く

[hɔːntɪŋ]お化けでもでそうな

[gɑːtər]みぞ

[məˈlnuːtrɪʃən]栄養失調

[æˈrəb]街の浮浪児

[gæˈrət]最上の階の部屋、屋根裏部屋

上の文章をどう読んだか。確かに、物質的にも極貧の状態である。しかし、本当の貧困とはそうしたことに付け加え、実質的に一人取り残されたことにあるのではなかろうか。とりわけ、親の愛（この場合は母・ハンナ）から取り残されたことにあるように、私には思われる。チャップリンは、自伝に幼い時の思い出として次のようなことを書いている。（空腹な）チャップリンは知り合いのマッカーシーの家に遊びに行き、その子と遊ぶだけではなく、食事もごちそうになっていた。しかし、彼は空腹でも母と一緒にいる方が嬉（うれ）しかった、と書いている。

"Mother...and for an hour she would read to me, for she was an excellent reader and I would discover the delight of Mother's company and realize I had a better time staying home than going to the McCarthys" ... And now I enter the room, she turned and looked reproachfully at me. I was shocked at her appearance; she was thin and haggard and her eyes had the look of someone in torment. ...She looked at me apathetically. "Why don't you run along to the McCarthys?" she said. I was on the verge of tears. "Because I want to stay with you."... "You run along to the MacCarthys' and get your dinner—there nothing here for you" (*1: p11)

【新潮社文庫版訳文例】「母は……一時間ばかりも本を読んでくれたりすることもある。実際母は朗読が上手だった。そしてそんなときには、母と一緒に時を過ごすことがどんなに楽しいか、マッカーシーの家などへ遊びに行くよりも、家にいるほうがはるかに楽しいことに気がつくのだった。……さて、その日、部屋へは行ってゆくと、母は振り向いて、こわい顔をして私を見た。わたしは母の様子に少なからず驚いた。やつれきった細い体、じっと苦痛に耐えているような痛々しい目つき。……母は冷ややかに私を見つめながら、「なぜマッカーシーさんの家へ遊びに行かないんだね？」と訊ねた。わたしは涙声で答えた。「だって母さんと一緒にいたいからさ」……「早くマッカーシーさんの家へ行って、夕飯をいただいでくるんだよ——家には何もないんだから」(*2: pp8-9)}

※[əpiərəns]様子、外観、外見

look→目つき、容貌、様子

run along→立ち去る。{子供への命令調で用いる}。

on the verge of→今にも～しそうな、瀬戸際の：[vɜːdʒ]へり

[hæɡərd](疲労、心配などで)やつれた

[tɔːrment]苦しみ、苦悩

つまり、何も食べなくても母と一緒にいたかった訳である。そして、チャップリンは母の二度目の発狂により、物質的貧困のみならず母の愛からも引き離されることになる。しかし、この親子の強い愛情はやがて再び共に暮らす日を呼び寄せた。第4節補足で紹介するチャップリンの作品は、この貧困と母との強い愛を出発点としていた。

だが、1929年に母はなくなり、チャップリンは第3節My favorite wordsの③に書いたよう

に母Hannahに向かい、映画・「独裁者」の中で“人”への愛を呼びかけるのである。

[(3)reading and writing:(12才)]

12歳の時でもチャップリンは読み書きができなかった。『CHARLIE CHAPLIN』(*4)には、「...he was not very good at reading or writing.」{【浜田訳文例】彼は読み書きが余り得意ではなかった}とあり、桐原書店の『CHARLIE CHAPLIN』(*5)でも、「Charlie now went to school so infrequently that he was unable to read difficult words.」(*5: p15) {【浜田訳文例】チャーリーは今もごく希(まれ)にしか学校へ行かなかったので難しい語を読むことができなかった}そこで「シャーロックホームズ」の役をもらったときにも台本は兄が読んで聞かせたという。

「So Sydney read his part to Charlie, who memorized it in this manner.」(*5: p15) {【浜田訳文例】そこで、シドニーはチャーリーに彼の役の台詞箇所を読んでできかせ、こういう方法で彼はそれを暗記していた}。12歳の時のことである。**だが、それでもチャップリンは「独裁者」の名文を書けたのである**(もともと、暗唱は得意であったが)。**形式(形を学ぶ)よりは中身(心)を学ぶことと(自分を通し)表現をすることがいかに大切か、そのことが読み書きも含め学ぶことにつながっていくこと**をチャップリンは示している、と私は思う。

※[infrɪ:kwəntli]まれに

[(4)仕事] : ここでは簡単に1921年までを参考までにメモした。

- 1)1889: 5才 →初舞台
 - 2)1898: 9才 →The Eight Lancashire Lads (エイト・ランカシア・ラッズ一座)に加わる。
 - 3)1910: 21才 →Fred Karno's company (フレッド・カーノー一座)の仕事のためアメリカへここで成功し花形となり裕福となる
 - 4)1913: 24才 →Hollywood (ハリウッド)のKeystone film company (キーストン社)と契約
 - 5)1914: 25才 →最初の映画Making a Living (『成功争ひ』)そしてthe Essanay Film Company (エッサネイ社)へ
 - 6)1915: 26才 →The tramp appeared. {チャップリンの浮浪者スタイル登場}
{※[træmp]浮浪者: 徒歩旅行、踏みつける、とぼとぼ歩く}
 - 7)1918: 29才 →自身の撮影スタジオを設け、一作ごとにかかる時間と労力を惜しまず、ファースト・ナショナル社(のちにワーナー・ブラザーズと合併)と、年間100万ドル超の契約を結び、名実ともにハリウッド・スーパースターとなる
→世界で最も高級取りの一人となる
 - 8)1919: 30才 →The United Artists studio (ユニテッド・アーティスト社)設立。
- 1921年のThe Kid (「キッド」)以降は第4節の補足説明参照。

[(5) A citizen of the world and a peace lover:1947](* 4 :p55)

「Charlie was questioned about being a communist」 (*4 :p62) {【浜田訳文例】「チャーリーは共産主義者かと尋問された」} 時に、彼は自分は共産党員ではないが、人をそのような基準で判断しない、と答えた。同時に、国籍を問われた時には、自分を「A citizen of the world」(世界市民)あるいは「peace-monger」(平和論者)であると答えた。→第3節の ㊦ 参照。

しかし、彼の真意は伝わらず、数々の圧力がかかり、やがてアメリカに住めなくなり、アメリカを後にする。

※monger=～屋、商い、～売り→warmonger, scandalmonger

[(6)7が'ミ-賞とチャップリンの死]

1972: He was given a special Academy Award. (*4: p62) {【浜田訳文例】1972年、彼はアカデミー特別賞を授与された。}

1977: Charlie Chaplin died. He was eighty-eight years old and had made more than eighty films. (*4: p62) {【浜田訳文例】1977年、チャーリーチャップリン死去。彼は88歳の生涯で80本を超える映画を作製した} ※[əkædəmi]: [əwɔ:d]賞

【2022/01/09 追記】はHPから御覧ください。

<http://www.h-takamasa.com/rensai/policy7.html>